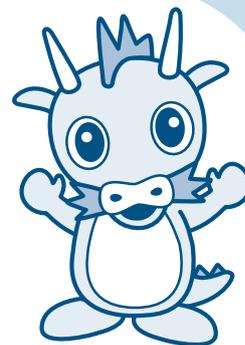


# 鐘の音

～かねのね～



vol.47  
2022.3 発行



大宮の古い地名「鐘塚」。そこに建てられた「パートナーシップさいたま」から男女共同参画推進の鐘の音を響かせたい、そんな願いを込めて名づけました。

## 令和4年度講座のご案内

### ◆主催講座

※令和4年1月時点の予定です。

さいたま市議会2月定例会において、令和4年度予算の承認を得られましたら詳細を決定いたします。講座の詳細は決定次第、市報・チラシ・HP等で周知いたします。また、新型コロナウイルスの影響により変更となる可能性がございます。最新情報は、パートナーシップさいたまHPをご確認いただきますようお願い申し上げます。

4月	ライフキャリア講座	傷ついた心のケア講座	
5月	離婚について知る講座		
6月	男女共同参画週間記念事業	ジェンダー平等カレッジ	
7月	ケアと労働を考える講座		
8月	性暴力防止セミナー、多様な性を知る講座		
9月	ママが元気になるジェンダー平等講座		出前講座
10月	社会を変える女性講座		
11月	DV防止セミナー、国際男性デー記念講座		
12月	わたしのからだはわたしのもの講座、メディア・リテラシー講座		
1月	世界の女性とつながる講座		
2月	アートから学ぶジェンダー		
3月			

### ※出前講座 専門の講師を派遣します

ジェンダー平等出前講座	さいたま市内の学校・事業所、団体等へ、テーマごとに専門の講師をコーディネートします(講師料はさいたま市が負担)。オンラインでの講座にも対応いたします。お気軽にパートナーシップさいたまへお問い合わせください。
-------------	---

# ジェンダーの話は「弱い奴の遠吠え」じゃないと気づいた

「長時間労働」をテーマに、令和2年度「男女共同参画週間記念事業」栗田隆子さん講演を聞いて話し合いました。その中で、長年仕事中心の生活をしてきた人がパートナーシップさいたまの講座を受講して、意識が変わったことについての会話です。  
※講演動画はさいたま市のYouTubeチャンネルで公開しています。

**Aさん** Bさんはこれまで、日々企業の中で競争をしてきたのに、あるときふと気持ちが折れてしまった、というのは本当ですか？

**Bさん** そうなんです。私は約30年間おなじ企業に勤めています。日本の競争社会によく適応した風土の組織で、つい最近までずっと数字を追いかけ続けてきたんですけれども、オーナー社長が次の代に交代してから、方針が変わりました。「多様性や社会的インクルージョン」をビジョンに掲げたんなんです。そこで私は、心のヨロイをおろし、「よし、世の中と会社の利益を両立するぞ！」と意気込んだところ、周りは完全武装のまま、相変わらずの社内競争を続けているという・・・

私はそのなかで働いていて、強烈な違和感を感じてしまい、次第にどこか無理がきてしまい、簡単にいうとポキッと折れた、みたいな感じですね。結果が出せなくなってきたり折れた、というか・・・

そして折れた後は「普通の世界」に戻ってきたって感じがするんですけど(笑)、これまではみんな同じ方向を向いている閉じた環境で競争していたのが、そこから離れて周りを見回せば、自分の家の中でさえみんな同じ色に染まった世界ではない、さらに見ていけばいくほどもっと違ったものが見えてくる、そんなことに気づきました。

**Aさん** 以前の、閉じた環境で競争している時は、ずっと結果を出すことばかり考えていて、周りをみる余裕もなかったってことですか？

**Bさん** 周りはだいたいライバルだと思っていますからね。実績を上げると自分の立場が上がって、部下ができて、その部下は利用するものだ、みたいな。周りが見えていなかった、というより、周りが、白も赤も青もなく、みんな黒に見える、グレーに見える、そんな感じですね。

・・・なんだか嫌な大人の話になってしまいました(笑)

**Aさん** ではBさんにとって、その気づきと、そこから男女センターに足を運んだっていうことはけっこう大きいですか？

**Bさん** そうですね、この変化は本当に最近の実感です。周りが見えていなかったっていうことだと思えます。今も同じような状態で闘っている人たちは結構いるんじゃないかな。

講座を視聴しても、以前なら、「弱い奴の遠吠えだ」のように自己責任論的な受け取り方だったと思います。だけど、皆さんからお話を聞いたり、本を読ん

みたりするうちに、自分の「ズレっぷり」にどこかで自覚するわけです。世の中と、自分や自分の周りの人たちの、もの見方がズレているっていうことに。一方でひょんなときに以前の自分の感じ方が顔を出してくるので、根本的には変わらないのかもしれない。でも、自分がある程度までは変わり続けていけるかなという実感というか期待を持ったので、今後は世の中が変わるにはどうしたらいいか、なんてことを考えられるようになってきた、そんな感じですよ。

**Aさん** 以前のBさんみたいに「弱い奴の遠吠え」みたいな受け取り方ってありますか？

社会を変えるには、そう思っている人たちに、今起きていることを伝えていく必要があると思うんですけど、どんなタイミングだったか響くと思いますか？

**Bさん** 一つ言えるのは、人は誰しも折れるときがあるってことです。ポキッと大きく折れるかポキッと小さく済むか、それぞれだと思うんですけど、そういう時には自分を振り返ることができる時間がもて、いろいろ探し始めて、その時だからこそ心に入ってくる言

葉があると思います。

でも、社会の課題をそのタイミングで確実にキャッチするのは難しいと思うので、いつでもセンターが開いていることや、SNSなどでジェンダー平等に関係する情報が目に触れる機会があることなど、多面的に発信し続けるのが大事なのかなと思います。

最近、『さよなら！一強政治』という本を読みました。日本社会がとんでもない状況になっているというところがわかり、政治に対する認識が変わりました。でも、読む前の私は、そのとんでもなさを実感する機会を積極的に持ってこなかった。「今までこうやってきたし、これからは安定した戦争もない良い国である日本に住んで行けるね」という「ゆでガエル」的な感じになっていったんだろうなと。

目の前のこと、コロナどうする、原油高どうする、といったトピックが日々流れこんできて、右から左に去っていくけど、本来は本にあるような、社会の仕組みや制度のあり方を、立ち止まって考える必要があるのだけれど、自分からはなかなかその機会をつくりにくいって思いました。

じゃあどうしたらいいんだろうっていうと、解決策は簡単には思いつかないんですけど、「知ること」「知ること」は大事だと思っています。

全部の課題が輪のように繋がっているという感じがするんですけど、どこをスタートにするのが正解なのか、またどうやって始めればいいのかはわからない。でも、知ることから始まるって事が大事で、こういう講座や本なんかが助けになるなって思っています。



『さよなら！一強政治』  
三井マリ子 著  
旬報社(2020)

## 国際男性デー記念講座

### 「男尊女卑と依存症社会」 講師: 齊藤 章佳さん



『男が痴漢になる理由』  
齊藤章佳 著  
イースト・プレス(2017)



『盗撮をやめられない男たち』  
齊藤章佳 著  
扶桑社(2021)

今回の講座内容は、自分もつ男尊女卑的な価値観や男性性  
に引き合わざるを得ず、私にとって、とても考えさせられる内  
容でした。一方で、私たちの住む社会が「男尊女卑依存症社会」  
なのだと思えば、いち早く「治療」に取りかかることが不可欠で  
はないかとも感じています。自らの価値観に向き合いながら行  
動変容を促していくことは、私たちひとりひとりにとって、大  
なり小なりに必要なことなのかも知れません。

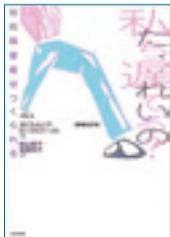
(むらかみ たくじ)

一方、具体的な性犯罪の加害者臨床の事例を引いて、性犯罪  
は性的欲求や衝動のみから起こすのではなく、「支配や優越、強  
さの主張といった様々な欲求から行われる」ことや、「痴漢にな  
りたくて生まれてきた男性もいません。彼らは社会の中で、自  
ら痴漢になるのです」と、その起因をジェンダーの視点から読み  
解き、社会が内包する課題としても提起します。そのうえで、  
依存症であれば学習しなおす方法があるとし、自らの価値観に  
向き合いながら行動変容を促す「認知行動療法」の取り組み事例  
を紹介します。

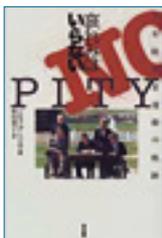
ジェンダーにとらわれ、苦しいけれどそれを手放せない、依  
存症によく似た状態を「男尊女卑依存症」と呼ぶのは、講師であ  
る齊藤章佳さん。そして日本の社会には、その「男尊女卑依存症」  
が根を張っていると示唆します。子どものころに「男らしさ、女ら  
しさ」について、家族やまわりの大人から諭された経験を持つ人  
は多いでしょう。そうした価値観はいつしか内面化していきま  
す。「男の子は泣いちゃだめ」などと、自ら周囲を諭すようになり、  
結果として世代を越えて価値観を引き継ぐことは、私にも大い  
に心当たりのあるところではあります。齊藤さんも自身について「長男だ  
から、男の子だから」という呪いが、いまだに消えません」、「私の  
根っこには非常に根深く男尊女卑的な価値観が存在する、内面  
化している」と自己開示します。

## 地球女子講座

### ESCAP「国連で働く;バリアフリーな世界を目指して」 講師: 秋山 愛子さん



『私たち、遅れているの?』  
一知的障害者につくられる (増補改訂版)  
カリフォルニア・ピープルファースト 編/  
秋山 愛子/斎藤 明子 訳  
現代書館(2006)



『哀れみはいらない』  
ジョセフ・P.シャピロ 著/  
秋山愛子 訳  
現代書館(1999)

秋山さんは何度も「Nothing About Us Without Us」(私たちを抜きに決めないでほしい)の言葉と英語は共通言語と話  
されてきました。バリアはなく障害のある人もない人も生きやすい社会  
がインクルーシブなのかと感じました。

(武田 礼子)

私は昭和37年に生まれ、この時代は男女共同参画、雇用均等法はあ  
りませんでした。高度成長期が子ども時代で楽しいこともありましたが  
嫌なこと、息苦しいことがありました。父の影響で英語が好きでした。  
日本の大学は行きましたが、中退して、カリフォルニア大学バークレー  
に留学し、障害者運動と出会うことになって、個人の課題と社会に訴え  
るということがつながるんだ、普通に言っているんだ、という感覚を味  
わいました。多様性に目覚め、ピープルファースト運動に出会い、通訳  
や手伝いをし知的障害者当事者が運動の中心になるという場を知りまし  
た。日本の障害者団体ともつながり、タイのESCAPで活動しています。

さいたま市出身の秋山さんは「国連で働くインクルーシブな世界を目指  
す」バリアでなくインクルーシブの話をしたと思います、と始  
まりました。

国際連合システムという全体を考えた場合100前後の主要な機関が  
あり、各国にもいろいろな機関があります。このシステムの中に約  
7万8000人の人が仕事をしています。全体の39%が女性で、日本人  
は912人です。うち事務局というセクションでは282名の日本人が  
働いており、女性は187人、男性が95人です。私が勤めている、ア  
ジア太平洋経済社会委員会は、バンコクにあり、通称ESCAP(エス  
キャップ)と言います。62の加盟国で全人口43億人、障害者6億9千万  
人の権利擁護のための仕事をしています。

## 相談のご案内

●相談は無料です。通話料は自己負担です。●秘密は厳守します。

## ●女性の悩み電話相談

女性の生き方、夫婦、親子の問題、職場や近隣の人間関係などの相談に応じます。

子ども家庭総合センター 男女共同参画相談室	☎048-711-6650
月～金/10:00～20:00 土・日・祝/10:00～16:00 (年末年始を除く)	
浦和区役所 女性の相談室	☎048-829-6129
月・火・水・金/10:00～17:00(祝日・休日・年末年始を除く)	
中央区役所 女性の相談室	☎048-840-6132
火・金/10:00～17:00(祝日・休日・年末年始を除く)	
岩槻区役所 女性の相談室	☎048-790-0158
月・水/10:00～17:00(祝日・休日・年末年始を除く)	

## ●男性の悩み電話相談

男性の生き方、仕事、家庭、夫婦、人間関係などの相談に応じます。

男女共同参画相談室	☎048-711-6101
令和4年4月より相談日時が変更となる予定です。 最新の情報は市HPをご確認ください。	

## ●女性のDV電話相談

☎048-762-3880
月～金/10:00～17:00(祝日・休日・年末年始を除く)

## ●女性のための法律相談(予約制)

女性の弁護士が相談に応じます。

実施場所	パートナーシップさいたま 予約電話☎048-642-8107
実施日時	第2水曜日/13:00～15:30(30分単位)
実施場所	男女共同参画相談室 予約電話☎048-711-5739
実施日時	第1・第3火曜日/13:00～15:30(30分単位)

## ●男性のための法律相談(予約制)

弁護士が相談に応じます。

実施場所	パートナーシップさいたま 予約電話☎048-642-8107
実施日時	第4水曜日/13:00～15:30(30分単位)

## ●女性のための心の健康相談(予約制)

専門の女性の医師が相談に応じます。

実施場所	男女共同参画相談室 予約電話☎048-711-5739
実施日時	第4火曜日/13:30～16:15(45分単位)

## 〈編集後記〉

コロナ騒動で外出もままならなかった昨年、我が家にあつたWi-Fiを引っ張りだして体を動かして運動不足を解消していました。子どもが中学生ぐらいに買った物で急に動かなくなってしまう、コロナも落ち着いてきたのでお役目が終わったと思われたかな、長年使っていたので残念ですが直すこともなく処分することに決めました。お疲れ様でした。

※原稿提出時の状況です。(武田礼子)

「モラ夫」というのは「モラルハラスメントを行う夫」を意味する造語で、「DV防止セミナー」の講師である弁護士・大貫憲介さんが生み出した言葉です。モラ夫やモラ夫予備軍は男性の8割を占めると大貫さんは言います。残り2割は「健康男子」と呼んでいるそうです。自分がどちらのグループに入るのか、少し気になります。ちなみに、パートナーにはまだ聞いていません。(むらかみたくじ)

アルバイトしていたときのこと。祖父が「くなり、社員に欠勤の連絡をLINEしたところ」「怒マークをつけて返信されました。普段は優しい人です。穴埋めの大変さはとても分かりますが、陰で文句を言っしてほしいと思いました。お店がいつも開いている、社会の利便さは、人の心を犠牲に成り立っています。」

(編集者の声)



JR大宮駅西口 徒歩8分

自転車で越しの場合、シーノ大宮駐輪場が無料でご利用になれます。



さいたま市

広報誌「鐘の音」のご感想、ご意見をお寄せください。

郵便、FAX、E-mailでパートナーシップさいたままでお願いします。

パートナーシップさいたま広報誌「鐘の音」vol.47 2022年3月1日  
〈編集・発行〉  
さいたま市男女共同参画推進センター(愛称:パートナーシップさいたま)  
編集員/武田礼子・むらかみたくじ  
〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-10-18 シーノ大宮センタープラザ3階  
電話 048-642-8107 FAX 048-643-5801  
E-mail: danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.lg.jp

◆ホームページもご覧ください◆ [パートナーシップさいたま](#) [検索](#)

10・3月発行(年2回)

この広報誌は42,000部作成し、1部当たりの印刷経費は10円です。

